

ブラッと歴史発見「空海さんの生涯」

2025.4.27 10:00～11:30

於：河内長野市天野公民館

木下浩良

1.はじめにー空海さんの実像ー

①空海さんは「ドロップアウトしたロック野郎」（作家夢枕獏さん）。

※空海さんは世間一般の俗世界から脱して、周りの反応を恐れず新たな価値観を信じて自分自身を信じてやり抜く性格の人だった。

②空海さんは「ラッキーボーイ」。

※空海さんの人生は強運だった。

③空海さんは「誰に対してもファミリーな人物だった」。

※誰であろうと「みんな、私の家族だ」と空海さんは思っていた。

④空海さんは「波乱万丈な人生だった」

※空海さんは、世のため人のため、駆け抜けた62年の人生だった。

⑤空海さんは「日本で初めて庶民に寄り添ったお坊さんだった」

※だから、今日まで空海さんは時空を超えて人々に慕われてる。

空海さん

弘法大師坐像

2.空海さん略年表(年齢は数え年)

宝亀 5 年 (774) 1 歳 香川県善通寺市で生まれる。幼名は佐伯真魚 (さえきまお)。

延暦 10 年 (791) 18 歳 国内で唯一の大学に、桓武天皇の皇子の伊予親王の家庭教師であった母方の叔父阿刀大足 (あとのおおたり) の斡旋で入学する。

地方豪族の子弟は大学入学は不可。空海さんが入学出来たのは特例。

延暦 11 年 (792) 19 歳 この頃、大学を中退する。一族が期待した高級官僚の道を自ら諦める。山林修行に入る。

空海さんはドロップアウトする。

延暦 16 年 (797) 24 歳 世界初となる比較宗教書の儒教・道教・仏教の違いを論じた、空海さんの出家宣言書とされる『聾瞽指帰 (ろうこしいき)』を著わして、仏教の優位性を説く。

延暦 23 年 (804) 31 歳 第 14 回遣唐使船に乗船。20 年間の唐における私費留学生として唐に渡る。生きて帰れる保証はなかった。

延暦 24 年 (805) 32 歳 唐の青龍寺で師匠の恵果から密教を授けられる。「この世の一切を遍く照らす最上の者」を意味する遍照金剛 (へんじょうこんごう) の灌頂名を与えられる。同年 12 月、恵果が亡くなる。

恵果が亡くなる直前に密教の法を授けてもらう。

大同元年 (806) 1 月 33 歳 空海が恵果の弟子の 1000 人を代表して亡き師匠の恵果の碑文を記す。2 月には、20 年の留学期間を切り上げて日本に帰国する。

空海さんは 20 年分の留学費用を使い込んでしまった。

空海さんは留学期間を 2 年と切り上げたから、日本に帰国できた。

大同元年 (806) ~大同 4 年 (809 年) 33 歳~36 歳

空海さんには入京の許可が出ず、大宰府に 3 年間滞在。20 年の留学を違えて帰国したから。

大同 4 年 (809 年) 36 歳 空海さんは、和泉国槇尾山寺に滞在。7 月に入京。和気氏の私寺の高雄山寺に入る。入京には、最澄の尽力や支援があった。最澄との交友がはじまる。最澄は空海さんが唐より持ってきた経典を借用を申し込む。空海さんはその求めに応じる。

弘仁 3 年 (812) 39 歳 最澄が空海さんの弟子になる。

弘仁 4 年 (813) 40 歳 最澄が『理趣経釈 (りしゅきょうしゃく)』の借用を申し込むが、空海さんはそれを拒否。最澄が空海さんに派遣した弟子の泰範 (たいはん) は最澄の下には帰らず、空海さんの弟子となる。

弘仁 7 年 (816) 43 歳 嵯峨天皇から高野山を賜る。

弘仁 12 年 (821) 48 歳 讃岐国の満濃池を修復。

弘仁 14 年 (823) 50 歳 東寺を賜る。

天長 4 年 (827) 54 歳 大僧都 (だいそうず) に任じられる。

天長 5 年 (828) 55 歳 世界初となる庶民のための学校の「綜芸種智院 (しゅげいしゅちいん)」を開院する。

天長 7 年 (830) 57 歳 人間の心のステージの 10 の段階を明らかにした『十住心論 : じゅうじゅうしんろん』を著わす。第一住心 (だいいちじゅうしん : 欲望のままに生きる心の段階) から、第十住心 (だいじゅうじゅうしん : すべてのものに無限の価値が秘められていると知る心の段階) を明らかにする。

承和元年 (834) 61 歳 一説にこの年に『般若心経秘鍵 (はんにゃしんぎょうひけん)』を著わす。同著の中で「仏とは一人一人の心の中であって、仏と人間は最も近い」と論じる。

承和 2 年 (835) 62 歳 高野山奥之院にて入定 (にゅうじょう) する。

延喜 21 年 (921) 空海さん入定 85 年後に醍醐天皇より「弘法大師」の名がおくられる。

空海さん直筆の『聾瞽指帰(ろうこしいき)』

3.青年時代の空海さんー『聾瞽指帰』の記述等により分かることー

- ◎空海さんは雪の明かりや螢の灯の光で勉学に励む。
- ◎空海さんは首に縄をかけて、股に錐を刺して睡魔と闘いながら勉学に励む。
- ◎空海さんは要は大変な努力家だった。
- ◎空海さんは異性にも興味があったようだが、見え美しい女性といってもしよせんは骸骨だと論破した。
- ◎大学を中退してからの空海さんは、お釈迦様と同じように苦行の修行を繰り返した。そして、苦行では悟れないことが分かった。
- ◎悟りは、自然の中でこそ体感できることを、身をもって知った。

4.唐に留学時代の空海さんー遣唐使船の乗船から入唐までー

①第 14 回遣唐使の顛末

- ・延暦 22 年（803）4 月 16 日難波津より出航。
- ・同月 21 日暴風に遭って難破。多数の乗員が遭難して溺死。初度の第 14 回遣唐使は中止。
- ・空海さんが乗船したのは、第 14 回遣唐使の 2 度目に出航した船だった。

空海さんは遣唐使船の再度の出航がなければ乗船できなかった。
- ・延暦 23 年（804）5 月 12 日、二度目の遣唐使船が難波津より出航。
- ・五島列島の田之浦で風待ちをして 7 月 6 日、4 船は一斉に唐を目指して渡海。
- ・第一船には遣唐大使・留学僧（自費留学生：20 年間の唐での勉学を課される）の空海が乗船。
- ・第二船には副使と請益僧（しょうやくそう：短期間の国費留学生。通訳付き）の最澄が乗船。ところが、4 船とも出航後すぐに暴風にあう。
- ・第三船は遭難して破壊、第四船も遭難して同船の判官の高階遠成らは生還して筑紫にもどる。
- ・第一船と第二船は遭難して行方不明。日本側は第一船と第二船は難破したものと判断。
- ・実は、第一船と第二船は何とか渡唐に成功していた。
- ・第一船は、34 日間の漂流の後の奇跡的に 8 月 10 日に福建省の赤岸鎮に漂着。
- ・第二船は目的の明州に 7 月中旬に到着。
- ・最澄は一年後の延暦 24 年（805）5 月 18 日に明州から帰国。おそらく、最澄は

行きの船の第二船にて帰国したものと推定。

遣唐使の目的

唐の皇帝への挨拶と、日本の将来を担う留学生の派遣及び、前回の遣唐使で入唐した有能な留学生を連れて日本に帰国させること。

※遣唐使の帰還率は、50%だった。

②日本からの遣唐使船だと信じてもらえない空海さんたち

- ・空海さんが乗船した第一船は、34 日間の漂流の後の 8 月 10 日に福建省の赤岸鎮に奇跡的に漂着。
- ・しかし、現地では遣唐使だとは信じてもらえず、海賊船と思われて、危うく全員殺されるようになる。
- ・遣唐大使が弁明するも聞いてもらえず、空海さんが嘆願書を書くとあまりにも名文で達筆なことにより、ようやく遣唐使だと信用される。
- ・第一船の遣唐使の一行は、長安へ急ぎ向かう。唐の皇帝へ年内に挨拶するため。

5.唐に留学時代の空海さん－^{けいかあじゃり}恵果阿闍梨との出会いと別れ－

①空海さんはインドの言語とインドの仏教を研究する

- ・空海さんが唐に渡った目的は日本で目にした密教の經典の意味が知りたかったからだ。『大日経（だいにちきょう）』という經典に記されている「自分自身の心をありのままに知ることが悟り（如実知自心（によじつちじしん））」の意味。
- ・本当は唐の都の長安に入ったら真っ先に密教の第一人者の恵果の下に行きたかったが、先ずはインドの言語のサンスクリット語の習得とインド仏教をわずか3カ月間でマスターする。実は、恵果の死期が近づいていた。

②恵果より密教の法を授かる

- ・空海さん、ようやく恵果と面談。恵果は空海さんに「ようやく会えましたね。あなたがここへ来るのを待ちわびていました」と発言。
- ・恵果は 1000 人もの弟子がいるにもかかわらず、空海さんに密教の法の全てを授ける。
- ・恵果は空海さんに全てを授けた後に亡くなる。

③空海さんが日本に帰国できた理由

- ・日本側では、空海さんら一行の第 14 回遣唐使は失敗したと考えて、第 14 回遣唐使の第四船の高階遠成を責任者として出航させる。渡唐に成功。同船に空海ら乗船して帰国を果たす。

第 14 回遣唐使第四船が入唐したから空海さんは日本への帰国が出来た。

- ・第 15 回遣唐使、承和 5 年（838）7 月出航。

空海さんが 20 年間の留学を守っていたら遣唐使船が唐から出航するのは、空海さんが入唐から 34 年後のことで、空海さんの寿命は尽きていた。第 15 回遣唐使が唐に入港した時は空海さんが 65 歳の時となる。空海さんは 62 歳で入定している。

空海さんは 2 年程で留学を辞めなければ日本に帰国が出来なかった。

強運だった空海さん。

6. 帰国後の空海さんの活躍

- ・九州の大宰府に 3 年間の足踏み生活。
- ・許されて入京。唐より密教の経典や曼荼羅などの法具の一覧を提出して最澄らの支援を受けて入京が許される。いわば、土産物目録を提出する。
- ・最澄さんとの交流が深まる。空海さんの弟子となった最澄。
- ・東寺の建立の建設現場監督となった空海さん。
- ・満濃池の修復の修復現場監督となった空海さん。10 万人もの人々が集まる。
- ・高野山の開創。比叡山と違い、大型の建物が建てられる。
- ・真言宗の立宗。高野山での 6 年間の修行を後継者に課す。

現在の満濃池

7. 空海さんの教え

- ・スマップのヒット曲の「世界に一つだけの花」の歌の歌詞にある、
「僕らも世界に一つだけの花。一人一人違う種を持つ。その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい。小さい花や大きな花、一つとして同じものはないから、NO.1 にならなくてもいい。もともと特別な Only one」、と同じことを言った空海さん。

※お互いの違いを認め合おう。みんな曼荼羅の一員の仏だよ、と説いた空海さん。

※だから、みんな争いは止めて生きて成仏しようよ、と説いた空海さん。